

コラム⑤ 子供が「中耳炎」と言われたら… ～それって、本当に「あわてる中耳炎」??

突然ですが、みなさん、「中耳炎（ちゅうじえん）」って聞いてどんな症状をイメージしますか？

「急に耳が痛くなって、熱が出たり、耳だれが出たり…」

正解です！正解ですが、それは「急性中耳炎（きゅうせいちゅうじえん）」という種類の中耳炎の症状なのです。

実は…中耳炎って、**たくさん、たくさん種類があるのです！**

「急性中耳炎」のほか、「滲出性中耳炎」「慢性中耳炎」「真珠腫性中耳炎」「癒着性中耳炎」などがあり、さらには、急性中耳炎を反復する「反復性中耳炎」なんてものもあります。

当然ですが、それぞれ成り立ちが違うため、対処法、治療法は全く異なります。

そんなにたくさんの種類があるのに、ただ「中耳炎」って言われても…**ドノチュウジエンデスカ…分かりません…**ですよ。

すみません、私自身も大いに反省するべきなのですが、診療が忙しいと、ついつい、医師は「中耳炎」としか説明できないことがあります。

中耳炎は耳鼻いんこう科で言われることが多いですが、ときどき、小児科を受診した時にも言われることもありますね。

なので、わかりやすく…だいたい、この2つのパターンに分かれると思います。

【パターン1】

子供が、「耳が痛い」「耳だれが出た」「熱が出た」という症状で受診

こどもは泣き叫んでいたり、機嫌が悪かったり…
→医師が診察し、「中耳炎ですね」と説明。

これは、「急性中耳炎（きゅうせいちゅうじえん）」です。

細菌やウイルスが、鼓膜や中耳に感染を起こしています。

治療を急ぎましょう！

これは、みなさんのイメージ通りだと思います。

【パターン2】

子供が「鼻づまり」「鼻水」など、鼻の調子が悪くて受診

発熱はなく、子供はいつもどおり元気。

→医師が耳を診察し、「中耳炎ですね」と説明。

これは、「滲出性中耳炎（しんしゅつせいちゅうじえん）」です。

耳は痛くなりませんし、耳だれもありません。熱も出ません。

大人がこの中耳炎になると、「耳がこもった感じ（耳閉感）」や「聞こえにくい感じ」などの症状が気になりますが、子供は症状を訴えないことが多いです。

治療は急ぎません。

治療のガイドラインでも、「まずは3か月程度経過観察」の方針が推奨されています。

えっ、そんな中耳炎、あるの！？放っておいていいの？

私個人の感想ですが、日々診療を行っていると、

『 医師が「滲出性中耳炎」のつもりで言った「中耳炎」という言葉を、親御さん

は、「急性中耳炎」の事と取り間違えている！！ 』

と感じるケースがとても、とーっても多いとかんじています。

このような場合には、私はまず、「急性中耳炎と滲出性中耳炎の違い」から、親御さんに来るだけわかりやすく説明することを心がけています。

その内容は…長くなるので、今回はここまで。

次回は、「子供の2大中耳炎、「急性中耳炎」と「滲出性中耳炎」」です。

急性中耳炎と滲出性中耳炎の違いについて、お話ししますね。